工藝部一學年教室新築ノ件〔同右。〕
女子部新設ノ件〔大正十年度以降報告と〕〔ほぼ同文につき省略。〕
本校附属奈良研究所設置ノ件〔大正十二年度以降報告と〕〔ほぼ同文につき省略。〕
陳列館新築ノ件〔大正十三年度報告と〕〔同文につき省略。〕

雑件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依嘱ヲ受ケ製作ニ従事シタルモノノ中重ナルモノヲ擧グレハ左ノ如シ

依嘱製作一覧

品目	數量	受託年度	竣功年度	依託者
西洋畫額	壹面	十三年度	十四年度	宮内大臣官房用度課長
賞牌及金具	参百四個	十四年度	十四年度	農林省
銅製釣燈籠	壹個	十四年度	十四年度	北白川宮家
香爐	壹個	十三年度	十四年度	宮内省皇后職
銀製雙鶴置物	壹對	十四年度	十四年度	東京府知事
二見ヶ浦置物	壹個	十四年度	十四年度	宮内省東宮職
日本畫幅	壹幅	十四年度	十四年度	高松宮附宮内事務官石川岩吉
素銅花瓶	壹對	十四年度	十四年度	高松宮附宮内事務官石川岩吉
花盛器	貳個	十四年度	十四年度	農林省
白馬置物	壹個	十四年度	十四年度	亀岡恭辰

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

東京美術學校近事〔二四巻—一号。T・一四年・四月・三日〕

○職員辭令

大正十四年二月十六日

學術研究ノ爲石川縣富山縣ヘ出張ヲ命ス　教授　六角注多良　但往復共四日間ノ事
助教授　松田　義之

學術實地指導ノ爲神奈川縣下ヘ出張ヲ命ス　但往復共一日間ノ事

同　年同月十九日　除服出仕　雇　谷本千代雄

同　年同月二十五日　除服出仕　書記　宮本　純一

同　年同月二十七日　陞敍高等官三等（内閣）　教授　森井　健介

陞敍高等官六等（内閣）　教授　矢代　幸雄

任東京美術學校教授　敍高等官七等（内閣）　助教授　石田　英一

任東京美術學校教授　敍高等官七等（内閣）　助教授　平田　榮二

同　年三月六日　教授　結城　貞松

右在外研究中ノ處三月四日歸朝ノ旨届出　教授　六角注多良

支那ヘ出張ヲ命ス（文部省）

同　年同月十六日　教授　島田　佳矣

學術研究ノ爲石川縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共一週間ノ事

同　年同月十八日　學校長　正木　直彦

美術工藝ニ關シ調査ノ爲三月十八日ヨリ廿二日迄石川縣ヘ出張セラル

同　年同月廿四日　教授　津田　信夫

滿期後大正十四年十月三日迄私費滯在ノ件許可ス（文部省）

○理事會　三月十日午前十時

協議事項　入學試驗に關する諸件

○教官會議　三月十七日午前十時　主として學年試驗に關する件卽及落及特待生の件等

本年の特待生

日本畫科

田村　行雄（一年）

川部東次郎（二年）

岩田覺太郎（三年）

西洋畫科

福井　謙三（一年）

福島順之助（二年）

瀧澤　健三（三年）

工藝部一年

高橋　俊輔　圖案科

圖案科

羽野　禎三（三年）

小池福太郎（四年）

金工科

海野　建夫（二年）

八田辰之助（三年）

三谷長博（四年）

彫刻科塑造部

池龜　輝治（四年）

山本　稚彦（四年）

同木彫部

高橋　泰藏（三年）

建築科

梅野鐵次郎（二年）

大澤　健吉（三年）

手塚　重治（四年）

鑄造科

横山　勝義（四年）

漆工科

笠間　與男（二年）

小川　金重（三年）

張間　喜一（四年）

特別進級

根箭忠次郎（鑄造科選科三年級より五年級へ）

○卒業式　三月二十四日第三十四回卒業證書授與式を本校大講堂にて擧行す　式次第例年の如く午前十時新卒業生式場に著席するや鈴川〔信一〕教務主任より式に關する注意あり　職員舊卒業生及來賓の著席するや正木〔直彦〕校長の式辭に始まり各科總代に卒業終書〔証〕を授與し校長の告別辭文部大臣訓辭代讀卒業生總代答辭（西洋畫科井上正勝）に式終る

それより職員及新卒業生は本館玄關前にて紀念撮影

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一二	○	○	一二
西洋畫科	三四	○	二	三六
彫刻科 塑造部	三	二	一	六
彫刻科 木彫部	一	○	○	一

建築科……二……〇……〇……二
圖案科……九……〇……〇……九
金工科……六……二……〇……八
鑄造科……〇……二……〇……二
漆工科……一……〇……〇……一
寫眞科……五……〇……〇……五
圖畫師範科……二二……〇……〇……二二
合計……九五……六……三……一〇四

卒業生姓名及卒業製作目錄（イロハ順）

日本畫科

晩秋　本科　一噌政治
雪の野尻湖　同　井上齊
南國の早春　同　春木一郎
靜謐　同　川田直一
春庭　同　土田孝吉
靜寂　同　中村德治
野路　同　成澤嘉雄
睡　同　長澤菊治
雙鷄の圖　同　眞島信太郎
秋　同　淺川脩三
春　同　木村宗一
霜月頃　同　關谷善信

西洋畫科

髮を結ぶ裸女　自畫像　本科　井上正勝
女　同　伊藤廉
水浴女の畫想　同　一原五常
シラミ　同　秦巖
自畫像　同　原進
裸婦　同　土岐浩藏
獨　同　富田千秋
おさげの頃　同　小畑稔
編物　同　香取恭
マンドリンを持てるT女　同　嘉數能愛
海邊の少女　同　我部政達
處女　同　川有智良藏
小女　同　川島昌介
女子像　同　河合孝基
自畫像　同　高橋貞吉
靜物　同　高橋善平
春光　同　高杉正實
裸婦　同　竹村晉
石膏像のかげ　同　武田一郎
老人　同　武內英男
活動のオーケストラ　同　丹下富士男
友人の像　同　中谷健次
編物する女　同　中村三樹男
音樂　同　南城一夫
小女　同　野間仁根

占ひ	同	同	野崎　兼俊
葡萄棚の下	同	同	野平　上
リボン	同	同	山中　新一
裸體	同	同	増村　正雄
休息	同	同	手塚宇宙兒
少女立像	同	同	阿藤眞壽夫
婦人	同	同	俵道　陽二
靜舒	同	同	森脇　高行
婦人像	同	同	鈴木　重雄
書齋の婦人	同	特別學生	金　昌燮
團扇を持てる女	同	同	孔　鎭衡

彫刻科

塑造部

山本君の像	本科	加藤　忠雄
自像（胸像）	同	村田勝四郎
女	同	安原　新次
胸像	同	杉浦藤太郎
村田氏の像（胸像）	同	中本秀三郎
おんな	特別學生	金　復鎭

木彫部

若きヨハネ	本科	上田　秋夫

建築科

ホテル	本科	本間　正文
パブリツクホール	同	森　政三

圖案科

壁掛圖案	本科	星野　愛三
裝飾模樣	同	奥田　政德
裝飾文樣	同	金友　五朔
壁掛圖案	同	田代　完
ベツドカバー（BED COVER）圖案	同	中村作太郎
フレツト樂器の裝飾	同	山内　幸男
中世風文樣壁掛圖案	同	宮田　政雄
舞臺裝置草案（ヘンリツク イプセン作『ブランド』）	同	平沼福三郎
壁掛圖案	同	須藤　雅路

金工科

ソーマアブ（月天子）	本科	服部　晃三
飾壺	同	大須賀　喬
果實盛	同	岡部　達男
額面	同	鴨　幸太郎
麗日和喣（衝立）	同	中川　勝文
花挿	同	増淵隆四郎
無礙の風光（額面）	選科	二橋　利平
狛犬	同	河村　清治

鑄造科

豐熟（置時計）	選科	香取　正彦
伸びんとする心（納骨堂）	同	内藤　春治

漆工科

曼陀羅四印會飾壺　寫眞科　本科　田中　千秋　長野縣立上田中學校　阿部　時彦

光に佇む　本科　岩戸　秀夫　福嶋縣立相馬高等女學校　荒木　武彦

ポートレート　同　玉置　辰夫　兵庫縣姫路市立高等女學校　淺野　徹

閑寂　同　野田　松男　福井縣立大野高等女學校　佐藤於菟彦

肖像　同　籔下　泰次　秋田縣立本荘中學校　酒井　忠一

春愁　同　宮川　富造　富山縣立礪波高等女學校　三好　俊一

栃木縣女子師範學校　平木　愛三

岐阜縣町立多治見高等女學校　平田　善吉

圖畫師範科

就職學校名

大分縣立國東高等女學校　居井　直胤

大分縣女子師範學校　原川　和雄

鹿兒島縣立川邊中學校　吉武　正巳

栃木縣立佐野商業學校　吉田　雄司

岩手縣師範學校　多田　銀三

北海道市立小樽高等女學校　竹田　信夫

東京美術學校　中野繁次郎

神奈川縣立湘南中學校　塚本　茂

滋賀縣立神崎商業學校　中津留武夫

青森縣師範學校　山口　諒司

宮城縣立築館中學校　山本　俊治

埼玉縣立松山中學校　谷部　正

宮城縣立白石中學校　松村　俊一

北海道廳立岩見澤高等女學校　遠藤倫太郎

○新入學生　本年の入學志望者は本科四九九人選科四九人特別學生二六人圖畫師範科一四五人合計七一九人でその内から一七八人を選拔して入學を許可した　人名左の如し

（姓名いろは順）括弧内は志望者數

日本畫科一年（五三）

石川　之武　五十嵐悌治　飯島　正義　本多　巳鶴

小原　尋　神戸　三虎　横田　良雄　高野喜一郎

山口　達　福田　福治　深尾　廣道　藤生宗三郎

安住　長朋　有賀　威　荒尾　昌朔　網野　亮俊

宮澤　勝　南谷　春雄　末永　光司

西洋畫科一年（二二九）

岩崎　勝平　岩清水義見　井上　修　新居　武男

帆足保之助　豐島　猛　岡田　秀雄　岡野福太郎

小野佐世男　小黒　武雄　小見　辰男　渡邊　力

武川　次辰　中尾　達　中村　茂雄　長原　坦

打下　武臣　浦北　勝二　黒田　清文　栗林東一郎
矢橋　六郎　山口　薫　山崎　坤象　柳生　勇一
松尾　隆成　松岡　信治　松平　四郎　松島　淳一
武藤　甲三　上月　順　小松　益喜　佐々木　德
木村郁太郎　木下　克巳　三井　滋雄　白澤　禎
周　讓吉　清水　啓三　新開益次郎　守田　滋
須山　計一　進來　哲

同特別學生一年（二五）

沈　學誠　陳　植　棋　李　海善　宋　秉　敦
黄　述　祚　許　達　姜　信　鎬　熊　汝　梅

彫刻科塑造部一年（二六）

生島　軍治　濱田　辰雄　吉開伊喜藏　中島　浩
野村　公雄　山下　快吉　安田周三郎　五辻　勉
古賀　忠雄　河内山賢祐　坂田　芳信　三井　高義
鈴木　達　須藤　德久

同選科一年（三五）

池野　和一　小川知之助（介）　加藤　式雄　巽　喜三郎
成島　勇太　中川　爲延　山田　敏雄　山田　節夫
下谷　貞一　廣井吉之助

彫刻科木彫部一年（一二）

池田　薫　川崎　榮一　朽木　收吉　松本　重美
紺屋　英儀　鈴木　賢二　鈴木三郎助

同選科一年（六）

飯塚　悌三　長谷川　宏

建築科一年（五七）

小川　洋吉　高梨　衞雄　内藤　三雄　山本　勝巳
木村　壽夫　比留間光一　鈴鹿　正德（穂）

圖案科一年（五七）

西田　敷　戸田　芳鐵　岡田喜三郎　織田　七郎
河畑　光三　玉生　寛治　津田　堯　松野憲之助
小西　秀元　淺川　藤次　里見　駿吉　澤田健次郎
尾藤　知明　須貝　昇

同科特別學生一年（一）

朴　南　洙

金工科（彫金部）一年（一〇）

河野　政男　鴨　政雄　山脇　洋二　松井憲太郎
古橋　茂

金工科（鍛金部）一年（一）

中島　正雄

金工科（彫金部）選科二年（五）

横川　彌作　高橋　勇　佐藤　俊雄

金工科（鍛金部）選科二年（三）

石井忠太郎　寺田伊兵衞

鑄造科一年（一一）

田中　纓二　高木勝四郎　詫摩日出男　平野　泰三
小泉　清一　森　新二

漆工科一年（一二）

堀　修　海老塚四郎　川村　源　堤　芳雄

栗山　善治　安部〔倍〕　郁二

寫眞科一年（二四）

田中　平八　辻　政弘　及部　夏雄　藤田　民也

藤田觀三郎　齋藤　宗武　齋藤弘三郎

圖畫師範科一年（一四五）

伊藤　武夫　飯岡　修　岩井　三夫　花野　三雄

戸坂　太郎　兼行武四郎　田中　爲信　田中　重久

田代　諫夫　辻　利平　武藤　秀雄　松田　天次

松島　正晴　福島　瀧雄　後藤　幸造　荒川　澪

秋山　忠勝　金　周經　三宅　良次　水島　清

南元　正義　森　桂一

○今年の修學旅行の計畫は專ら和田〔季雄〕助教授がやつた。そしてその豫備知識涵養の爲め二月の二十七日に正木〔直彥〕校長が一般概念に就て（二時間）關野貞博士が三月二日に（三時間）同九日に（三時間）計六時間に亘つて建築と彫刻に就ての御講話が有り、尙文庫で二月の二十三日から三月の七日迄二週間、修學旅行に關する資料の陳列が有つたので旅行參加者に執つては頗る幸で有つた。

今年の指導教官及職員は北村西望教授、石田英一教授、和田季雄助教授、北浦大介氏（文庫主任）增井兼吉氏、古宇田正雄氏の六名、生徒は例年の記錄を破つて六十九名の多數參加を見るは誠に喜ぶ可き事で有る。

本年の修學旅行日程豫定

第一日（四月十五日）午後八時四十分東京驛發

第二日（同十六日）午前六時二十分名古屋驛下車名古屋離宮拜觀、午後一時四十分名古屋驛發同六時六分二見浦驛着、二見朝日館宿泊

第三日（同十七日）內宮外宮參拜、午後零時十七分山田驛發同四時六分奈良驛着大文字屋宿泊

第四日（同十八日）興福寺、東大寺、手向山八幡

第五日（同十九日）正倉院前、東大寺轉害門、不退寺、法華寺、西大寺、唐招提寺、藥師寺、法隆寺村、大黑屋宿泊

第六日（同二十日）法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺（此の日當麻を觀るか）初瀨町、井谷屋宿泊。

第七日（同二十一日）長谷寺、大野寺、室生寺、室生寺宿泊。

第八日（同二十二日）聖林寺、文珠院、談山神社、岡寺、橿原神宮（此の日の豫定を變更して當麻をゆつくり觀るか）大文字屋宿泊。

第九日（同二十三日）新藥師寺、十輪院、春日神社。

第十日（同二十四日）奈良博物館

第十一日（同二十五日）午前八時十五分奈良驛發蟹滿寺、平等院、萬福寺、桃山御陵參拜、京都市三條小橋、布袋屋宿泊。

第十二日（同二十六日）二條離宮、京都御所、仙洞御所、修學院離宮

第十三日（同二十七日）桂離宮、西本願寺、東寺

第十四日（同二十八日）法界寺、醍醐寺三寶院

第十五日（同二十九日）大德寺、廣隆寺、

第十六日（同三十日）三十三間堂、京都博物館、解散歸京。

○職員動靜

○津田信夫先生留守宅類燒　三月八日午前九時頃隣家から出火の爲め類燒しました。工場の方は難を逃れました。

○六角注多良先生は約一ヶ月の豫定で支那北京へ推朱の研究に行かれました。歸りは朝鮮經由ださうです。

○香取秀眞先生は朝鮮總督府からの委囑で目下齋戒沐浴朝鮮神社の神鏡二面を製作中の由、尙同社御神體となるべき鏡に就ても交渉ありしとか。

○高村光雲先生　昨年の御婚儀記念として　攝政宮殿下から御下命で謹刻中であつた鷹の置物が完成して過日上納せられた由、右は先生一代の名作として確に後世に遺る神品で有る。

○教授結城貞松氏　大正十二年五月出發在外研究員として滯歐中の處三月四日歸朝せられたり。

東京美術學校近事〔二四―二。T・一四・五・二〇〕

○職員辭令

大正十四年三月廿七日　　從四位勳四等（講師）　關野　貞

敍勳三等授瑞寶章（賞勳局）

同　　年同月廿八日

依願解雇　　雇　　野口吉五郎

同　　年同月卅一日

監視ヲ命ス　　（監視補助）　雇　　渡部千次郎

同　　年四月八日

陞敍高等官二等　　教　授　久米桂一郎

同　　年同月十日　　講　師　村田　良策

從來擔任英語美學ノ外更ニ色彩學授業ヲ囑託ス　　藤井　昭

本校講師ヲ囑託ス　但英語授業擔任ノ事

同　　年同月十一日

教　授　北村　西望

（各通）同　　石田　英一

助教授　和田　季雄

學術實地指導ノ爲三重縣奈良縣京都府ヘ出張ヲ命ス　但往復共十七日間ノ事

（各通）　書　記　增井　兼吉

同　　北浦　大介

本校生徒修學旅行ニ付三重縣奈良縣京都府ヘ出張ヲ命ス　但往復共十七日間ノ事

雇　　只宇田正雄

本校生徒修學旅行ニ付三重縣奈良縣京都府ヘ出張ヲ命ス　但往復共十七日間ノ事

右出張ノ序ヲ以テ奈良縣ニ於テ學校事務調査ヲ命ス　但滯在三日間

同　　年同月十五日

本校生徒京都府修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス　　京都府技師　阪谷良之進

（各通）　奈良縣技師　岸　熊吉
正七位　新納忠之介

本校生徒奈良縣修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス　中野繁次郎

任東京美術學校助教授（文部省）

同　年同月十六日　教授　森井　健介

敍從五位　教授　矢代　幸雄

敍正七位　教授　石田　英一

敍從七位

同　年同月二十日　教授　矢代　幸雄

學術研究ノ爲福岡縣大分縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共一週間ノ事

同　年同月廿三日　助教授　中野繁次郎

圖畫師範科自在畫及手工授業擔任ヲ命ス

同　年同月廿四日　陸軍歩兵少佐　山口　一二

東京美術學校服務ヲ命ス（陸軍省）

同　年同月廿七日　教授　平田　榮二

除服出仕　教務囑託　岩崎　巖

會計掛兼勤ヲ免ス　山崎覺太郎

東京美術學校助手ヲ命ス（漆工科勤務）　鈴州〔川〕信一

教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）　講師

○奈良京都古美術實地見學旅行は前號記載豫定表の通り遂行五月一日歸京す　奈良帝室博物館にては正倉院古裂の京都博物館にては松方幸次郎氏の浮世繪の特別陳列あり　其他各社寺共當旅行團の爲め特に寶物什器の陳列をして待受けらるゝ等頗る優遇を受け研究上便宜を得る事多かりし　尙此の旅行の効果を大ならしめんが爲め來五月十八九日頃より約一週間の豫定にて各生徒の收穫品展覽會を文庫階上に催し各人の撮影したる寫眞の交換等をもなす筈

○本校規程中改正の件五月八日文部省令を以て官報に發表せらる

○職員動靜

坂口肫　市外千駄ヶ谷九〇三へ轉居

野口六三　神奈川縣川崎町堀ノ內三七六へ轉居

杉田精二　北豐島郡巢鴨町上駒込三九〇へ轉居

宮本純一　本郷區駒込富士前町六へ轉居

金田春吉　四谷區新宿町二丁目七二磯辰吉方へ轉居

利部房太郎　北豐島郡王子町大字王子一、一〇三へ轉居

東京美術學校近事〔二四—三。T・一四・六・二〇〕

○職員辭令

大正十四年五月六日　（東京高等工藝學校教授）　伊東　亮次

本校講師ヲ囑託ス　但寫眞ニ課スル寫眞製版大意授業擔任ノ事

同　年同月十五日

講師　伊藤　龍吉
囑託滿期ノ處尚引續キ一箇年間ヲ囑託ス
同　年同月十九日　學校長　正木　直彦
古美術ニ關スル調査研究ノ爲五月十九日ヨリ同月廿五日迄京都府及奈良縣ヘ出張セラル
同　年同月廿八日　教授　島田　佳矣
教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
東京美術學校近事〔二四―四。T・一四・九・三〇〕
○職員辭令
大正十四年六月一日　（各通）教授　渡邊　啓三
助教授　海野　清
依囑製作事業ニ關シ三重縣下ニ出張ヲ命ス　但往復共五日間ノ事
學校長　正木　直彦
營繕局管財局願問被仰付（內閣）
同　年同月五日　小場　恒吉
本校講師ヲ囑託ス　學術研究ノ爲朝鮮ヘ出張ヲ命ス
同　年同月十五日
故伯爵平田東助家督相續人　教授　平田　榮二
襲爵被仰付（宮內省）
同　年同月廿三日　加藤　愛藏
臨時雇ヲ命ス　但會計掛勤務

同　年七月四日　助教授　和田　季雄
學術研究ノ爲靜岡縣下ヘ出張ヲ命ス　但往復共四日間ノ事
同　年同月廿七日　（各通）教授　結城　貞松
同　北村　西望
帝國美術院會員被仰付（內閣）
（各通）教授　結城　貞松
同　北村　西望
帝國美術院美術展覽會委員被免（內閣）
同　年八月三日　學校長　正木　直彦
美術上ノ視察調査ノ爲八月三日ヨリ向三週間朝鮮ヘ出張セラル
同　年同月四日　榧本龜次郎
臨時雇ヲ命ス　但文庫掛勤務
同　年同月十日　教授　長原孝太郎
（各通）同　建畠彌一郎
同　松岡　輝夫
助教授　田邊　至
帝國美術院美術展覽會審査員ヲ命ス（文部省）
同　年九月二日　書記　宮本　純一
九月二日ヨリ二十二日迄勤務演習ノ爲步兵第二聯隊（水戶）ヘ召集セラル
同　年同月五日　臨時雇　加藤　愛藏
依願臨時雇ヲ解ク
○職員動靜

今和次郎氏　府下北多摩郡武藏野村吉祥寺二七四三ヘ轉居
松田義之氏　府下北豐島郡瀧ノ川町大字西ヶ原八二四ヘ轉居
齋藤佳三氏　女子裝飾美術學院創設
高村光雲氏　同氏夫人逝去（九月十日）
和田英作氏　同氏母堂逝去（九月十一日）

東京美術學校近事〔二四―五。T・一四・十一・三〕

○職員辭令
大正十四年九月十六日　（各通）教授　津田信夫
教授　石田英一
敍勳六等授瑞寶章
同　年同月十七日　神戸高等工業學校教授（本校兼務教授）　古宇田實
陞〔陞〕敍高等官二等
同　年同月十八日　除服出仕　教授　高村光雲
同　年同月廿一日　除服出仕　教〔授〕援　和田英作
同　年同月廿六日　助手　鎌倉芳太郎
學術研究ノ爲沖繩縣ヘ滯在出張ヲ命ス　但滯在期間一ヶ年ノ事
同　年同月廿八日　講師　岡田起作
教員檢定委員會臨時委員被仰付
同　年十月七日　助教授　松田義之
學術實地指導ノ爲京都府大阪府奈良縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共十日間ノ事
同　年同月十日　學校長　正木直彦
教授　島田佳矣
同　六角注多良
〔各通〕同　清水龜藏
同　石田英一
講師　香取秀治郎
同　辻村延太郎
工藝審査委員被仰付
同　年同月十二日　文部省在外研究員助教授　田邊孝次
伊太利ヲ在留國ニ追加ス
同　年同月十三日　除服出仕　劍道指南囑託　橋本統陽

○職員動靜
○森田龜之助氏　巴里の宿所は
Pax Hotel. 61 rue be IAmiral Roussin Paris (15e)
○津田信夫氏　文部省在外研究員としてまた巴里萬國裝飾美術工藝博覽會委員として約三年間歐洲に在られましたが去十月十一日神戸入港の白山丸にて歸朝せらる
○足立芳五郎氏　同氏夫人逝去（十月十七日）

東京美術學校近事〔二四―六。T・一四・十二・十二〕

○職員辭令

大正十四年十月十六日

學術實地指導の爲東京府下へ出張を命ず　但往復共一日間の事　教授　平田　榮二

助教授　中野繁次郎

同　年同月二十六日

學術實地指導の爲群馬縣へ出張を命ず　但往復共二日間の事　教授　森　芳太郎

助教授　長口　宮吉

助教授　畑　保之

本校生徒修學旅行に付群馬縣へ出張を命す　但往復共二日間の事

除服出仕　書記　足立芳五郎

同　年十一月二日

敍正四位　教授　久米桂一郎

同　年同　月九日

依願解雇　雇　青山　正治

同　年同月十三日

美術に關する調査の爲十一月十三日より十七日に至る間奈良縣へ出張せられ　學校長　正木　直彦

助手　山崎覺太郎

學術研究の爲岩手縣へ出張を命す　但往復共二日間の事

同　年同月二十五日　教授　森　芳太郎

工藝化學研究の爲滿二年間獨逸國へ在留を命す

東京美術學校近事〔二四―七。T・一五・二・一〇〕

○職員辭令

大正十四年十一月二日（十五年一月四日官報）

帝國美術院會員（教授）藤島　武二

同　（同）結城　貞松

同　（同）朝倉　文夫

同　（同）北村　西望

敍正五位

同　年十月十四日（十四年十二月二十一日官報）　書記　增井　兼吉

敍從七位

同　年十一月二十五日　教授　高村　光雲

敍勳二等授瑞寶章　帝國美術院會員（教授）藤島　武二

同　（同）結城　貞松

敍勳四等授瑞寶章

同　年同月三十日　青山　新

東京美術學校助手ヲ命ス　美術史研究室勤務兼文庫掛勤務

同　年十二月三日

東京美術學校雇ヲ命ス　監視補助ヲ命ス

教授　平田　榮二
助教授　關野金太郎

帝國美術院展覽會委員被仰付

同　年十二月十一日

陞〔陞〕敍高等官三等　教授　結城　貞松
陞敍高等官四等　教授　長原孝太郎
教授　小林　萬吾
同　水谷　鐵也
同　松岡　輝夫

〔各通〕

陞敍高等官五等

同　年同月十六日

除服出仕　教授　水谷　鐵也

同　年同月十七日

除服出仕　助教授　小岩　峻

同　年同月十八日

學校長　正木　直彦

美術上ニ關スル用務ノ爲十二月十八日ヨリ四日間京都府滋賀縣ヘ出張セラル

同　十五年一月十一日　武田　信一

本校講師ヲ囑託ス　但圖畫師範科ニ課スル教育學及修身授業擔任

同　年同月二十二日

鑄造科主任及理事ヲ命ス　教授　津田　信夫
寫眞科主任ヲ命ス　講師　鎌田彌壽吉〔治〕
寫眞科理事ヲ命ス　助教授　長口　宮吉
鑄造科主任ヲ免ス　教授　大島勝次郎
寫眞科主任及理事ヲ免ス　教授　森　芳太郎
鑄造科理事ヲ免ス　助教授　坂口　肫
工藝化學授業ヲ增囑ス　講師　鎌田彌壽治

関連事項

① 森田亀之助の在外研究

大正十四年一月、助教授森田亀之助は文部省より西洋美術史研究のため満二年間イギリス、フランス、イタリア在留を命ぜられ、同年三月末出発した。森田は本校の英語、西洋美術史授業を担当し、東京女子高等師範学校講師を兼任していた。

森田の留学中の足跡は、森田家にあった関係資料が戦災で失われたため詳細に把握できないが、『東京美術学校校友会月報』には森田やその知友の手紙が掲載されているので、留学中の様子が多少分かる。森田はパリに滞在して勉強していたが、大正十四年十一月二十四日付の田辺孝次の手紙のなかには「森田氏は慢性の胃腸病より來れる神經衰弱にて去般來極力小生勸めて田舍へ二週間程靜養に參られ、已に全快、伊太利に同行して、此佛蘭西冬の不健全にして暗黑なる氣分を脱し度と存じ居り候」とある。しかし、仕事の都合で森田は田辺と同行できず、パリで年を越してからイタリア旅行に出